

旅行者が遭遇しやすい犯罪とその対策

2018年中に在イタリア大使館(ローマ)、在ミラノ総領事館に邦人から届出のあった被害届の件数は**493**件でした。

(2022年中の件数は93件(コロナ禍の影響で観光客等が激減していたものと見られる))

イタリア国内における犯罪件数はすでに新型コロナウイルス感染拡大前の水準に戻っており、スリ、置き引き、ひったくりに代表される軽犯罪が多発している状況です。

旅行者の多い**空港、駅、電車内、バス停留場、バス車内、観光スポット、ホテル内、レストラン**などでは、犯罪者がスリや置き引きの機会を狙っています。周囲に不審な人物がいないか等に気を配ることを忘れず行動してください。

イタリアの犯罪認知件数は日本の6倍(人口比)以上です！

2022年 日本の刑法犯認知件数 60万1389件

2022年 イタリアの刑法犯認知件数 218万3045件

各種犯罪の手口と対策は以下の通りです。

主な犯罪

・スリ

・置き引き(ホテル、レストラン、小売り

店などの店内)

・置き引き(駅・列車内)

・ひったくり

・車上狙い

その他の犯罪

・強盗

・ぼったくりバー、レストラン

・睡眠薬強盗

・ホテルの部屋内での被害

・クレジットカードのスキミング

・違法タクシー

・偽警察官

・路上での押し売り

主な犯罪

スリ

1 発生場所

- ・バス、地下鉄等の車内(特にドア付近)、駅や観光スポットなどの人の多い場所

2 手口

- ・混雑して荷物への注意が薄くなっている中、バッグから財布などの貴重品を抜き取る。とくにバッグを背負った状態のカバンから貴重品を抜き取る。
- ・子供達や赤ん坊を抱いた女性が手を差し出しお金をくれと言いながら近寄り、相手の注意を赤ん坊や手に集中させ、その本人及び第三者から見えない角度からバッグやポケット内に手を差し込み、貴重品を抜き取る。
- ・後ろから子供達や赤ん坊を抱いた女性が押し込む様に電車に乗り、その際にポケットから財布等を抜き取る。
- ・目の前で小銭を落とす、急に話しかけてくる(「ケチャップやアイスなどが付いているから落としてあげる」など)などにより、旅行者の注意を引きつけている隙に瞬時に貴重品を抜き取る。
- ・バッグを刃物で切りつけ、貴重品を抜き取る。
- ・混雑している乗降時に手伝うように見せかけて、手荷物から貴重品を抜き取る。
- ・切符の券売機付近で「手伝いましょうか?」「服が汚れていますよ」などと注意を引いている間にバッグから貴重品を抜き取る。

3 対策

- ・混み合っている車両は避け、止むを得ず車内が混み合っている車両に乗車した場合には、必ず手荷物を自分の前に抱え、注意してください。
- ・極力混雑した場所は避けて通るように注意してください。
- ・カバンは前に抱え、ファスナー部分を手で押さえてください。また、カバンの外ポケットはスリ被害に遭いやすいので、貴重品はカバン奥に入れてください。
- ・バス、地下鉄等では席が空いていれば、座ることにより背面は防御されます。
- ・持ち歩く現金や貴重品は、必要最低限に抑えてください。
- ・リスク分散のため、持ち歩く現金や貴重品をバッグの中で小分けに収納してください。
- ・スリと思われる集団に囲まれた場合、年齢・性別等に惑わされることなく、直ちにその集団から離れてください。

置き引き(ホテル、レストラン、小売店などの店内)

1 手口(屋外の席は特に注意が必要です。)

- ・椅子の背もたれや次席テーブルで空席の椅子上に置いておいたバッグを盗む。
- ・チェックインの際など、足下やカウンターに一時的に置いておいたバッグを盗む。
- ・同行者にバッグを預け離席した際、その同行者に声をかけ注意が逸れたところで別の者がバッグを盗む。
- ・洋服や靴の試着中に、店内にて客を装った者が傍らに置いていたバッグを盗む。
- ・上着やコートのポケットに入れた貴重品を盗む。
- ・セルフサービスやビュッフェ等で、座席に貴重品を置いたまま食事を取りに行っている間にこれを盗む。

2 対策

- ・荷物は確実に目の届く位置に置き、常に目を離さないよう注意してください。
- ・離席する際は自分で荷物を持ち歩いてください。
- ・荷物はテーブルの足下に置いて身体の一部を常時触れさせるなどして警戒してください。

置き引き(駅・列車内)

1 手口

- ・汚れていると言われた服を脱ぐため荷物を地面に置いたときに、別の者がこれを盗む。
- ・座席や荷物棚に荷物を置いたまま、目を離している隙やトイレ等で離席している間に盗む。
- ・出発間際に声をかけられ、注意をそらされている間に、列車の中にいる仲間が貴重品を盗む。
- ・座席から離れた荷物置き場に置いた荷物が出発前に盗まれる。

2 対策

- ・駅構内に切符所持者のみが入れる制限区域のある大都市駅では、早めに入場することをお勧めします。
- ・駅構内で見知らぬ人が近づいてきたら、速やかに離れてください。
- ・とくに列車の発着時は「魔の時間帯」です。自分の席についても、また、見知らぬ人から話しかけられても、気を抜かず貴重品を持ち去られないように注意してください。トイレなどで短時間離席する場合でも貴重品は常に携行してください。
- ・貴重品は荷物棚に置かないでください。
- ・荷物置き場などに置いたスーツケースなどには、貴重品を入れないでください。列車が出発するまでの間は荷物から目を離さない、チェーンロックをする等の手段も有効です。

ひったくり

1 発生場所

- ・路上や公共交通機関へ乗降の際、または人気のない道に入った際など

2 手口

- ・こちらが歩いているときや、バス・車の乗降時に、オートバイにて急接近しバッグなどを奪い取る。

3 対策

- ・徒歩で移動する際は、バッグを常に車道と反対側(もしくは自分の正面)に抱えてください。
- ・イヤホンをしたまま歩かない、足早に歩くなど、周囲に注意を払い十分な安全対策を講じていることを第三者に知らせ、ターゲットにされない努力が必要です。
- ・両替所や銀行、買い物した店等から出てきた後は狙われやすくなります。周囲に警戒してください。
- ・万が一ひったくりに遭遇した場合、無理に抵抗せず荷物を離してください。
⇒抵抗すると強引に引っ張られ、引きずられたり転倒して怪我を負う可能性があります。

車上狙い

1 手口

- ・信号待ちで停車中、急に扉を外から開けられ、膝上や座席に置いていたカバンをひったくる。
- ・自動車の車内に置いた荷物を、窓ガラスを割ったりドアの鍵をこじ開けて盗み取る。
- ・自動車で走行中、「タイヤがパンクしている」と言ってきたり、故意に接触してきて「サイドミラーが壊れた」などと言いがかりをつけて車を停車させ、こちらが損傷箇所の点検を行っている間に車内の荷物を持ち逃げする。
またはこちらが降りたところをオートバイに取り囲まれ、身につけている貴重品を強奪する。

2 対策

- ・貴重品の入っていないカバン等でも、車外から見えやすい場所には置かないようにしましょう
- ・車内に荷物や衣類を放置しないようにしてください。
- ・荷物をトランクに入れる場合でも、入れる瞬間を確認された場所では駐車しないようにしてください。
- ・走行中に停車を求められても安易に車外に出ないでください。
- ・乗車する際は必ずドアロックをかけてください。

その他の犯罪

強盗

- ・主に夜間や人通りが少ない通りにて、羽交い締め等の暴行を受け、荷物を奪われる事例
⇒夜間は単独での行動や人通りの少ない通り、駅周辺の通行を避けてください。
⇒やむを得ず外出する際は極力人通りの多い通りを選んだり、タクシーを利用してください。

ぼったくりバー、レストラン

- ・観光客を装った者からの「私のおごりで飲みに行こう」などの誘いを受け入店した飲食店にて、法外な料金を請求されたり、払うまで退店させないと脅される事例
- ・しつこいレストランの客引きの誘いで入店・飲食し、食後に法外な料金を請求される事例
⇒客引きや見知らぬ者からの誘いには乗らないように気をつけてください。
⇒被害に遭った場合は、支払う前に、警察(112番又は113番)へ連絡して介入を依頼してください。
⇒クレジットカードで支払った場合は、二次被害の未然防止のためにカード会社に連絡するようお勧めします。
⇒「100g : XX ユーロ」という表示のメニューは、合計金額が事前に分からない限り注文しないことをお勧めします。

睡眠薬強盗

- ・バーや電車内にて、観光客を装った者から英語や日本語で「友達になろう」「日本のことが知りたい」などと親しげに話しかけられ、勧められた飲食物を口にしたら意識を失い、その間に荷物を盗まれる事例
⇒見知らぬ人物から飲食物を勧められても安易に口にしないようにしてください。

ホテルの部屋内での被害

- ・従業員になりすました者が様々な口実(空調やバスルームのチェックなど)で部屋に入り、貴重品を盗む事例
セーフティボックスごと盗む事例もある。
⇒不審な者が部屋を訪問してきた場合、ドアを開けず、フロントに連絡して事実確認を行ってください。
⇒セーフティボックスは持ち出せないような物か、鍵はしっかりかかるか確認して利用してください。
⇒就寝時に泥棒に入られるケースもあるため、就寝時にはチェーンロックをかけ、無い場合にはドア止めを内側からかけてください。

クレジットカードのスキミング(磁気情報の不正読み取り)

- ・キャッシュディスペンサー(ATM)に不正読み取り用の装置を取り付け、カード情報を読み取ることで偽造クレジットカードを作成するとともに、小型カメラで暗証番号を撮影して不正に預金を盗む事例
⇒ATM は路面ではなく銀行内に設置されているものを利用してください。
⇒暗証番号入力の際は、手元を見られないように隠しながら操作してください。
⇒やむを得ず路上設置のATMを利用する場合にも、カード差込口に不審な付属物(カード情報を盗むスキマーと呼ばれる物)がないか確認してください。

※カードを挿入後、一定時間が経過するとそのカードは ATM 内に飲み込まれます(盗難防止のため)。
銀行側に対応してもらえよう、ATM の利用は銀行の営業時間内に行うことをお勧めします。

違法タクシー

- ・いわゆる「白タク」。空港や大きな駅で客引きを行い、「ストライキで電車は動いていない」と誤った情報を流したり、偽の証明書を提示して騙して客を乗せ、法外な料金を請求したり荷物を持ち逃げする事例

⇒客引きを行うタクシーには乗らず、正規のタクシー乗り場から乗車してください。

⇒正規のタクシーにおいても、料金メーターに不正がないか確認してください。

偽警察官

- ・「声をかけてきた者から麻薬を買った疑いがある」、「偽札を持っていないかチェックする」など、警察官を装った者が言葉巧みに接近し、渡した財布から現金やクレジットカードを盗み取る事例

⇒イタリアでは、私服警察官が財布を点検したり、カードの暗証番号を確認するなどをすることはありません。

⇒このような場合財布は提出せず、警察手帳の確認を求めるか、警察(112番又は113番)に確認をとってください。

⇒「警察署まで連行する」と言われても、警察車両であると確認できない場合は、それに乗車しないでください。

※イタリアの警察機関は、国家警察「POLIZIA」、国家憲兵「CARABINIERI」、財務警察「GUARDIA DI FINANZA」その他自治体警察(ローマでは「POLIZIA ROMA CAPITALE」)など、複数存在します

路上での押し売り

- ・著名な観光地において、頼んでいないのにミサンガを手首に巻き付けたり、バラの花を押しつけてきて、その代金として高額な請求をする事例。または代金を払おうと財布を取り出すと、それを強奪する事例

⇒ミサンガや花の押し売りをしている者を見かけたら、躊躇無くその場から離れてください。

- ・路上に置いていた商品(ポスター等)を踏まれたと主張し、弁償を要求してくる事例

⇒路上で商品を並べているような場所には近寄らないようにしてください。

⇒景観に気をとられて足下の注意がおろそかにならないように気をつけてください。

その他、長期滞在される方を対象とした安全対策については、[「イタリアで生活される方への安全の手引き」](#)をご覧ください。